

社会福祉法人順和会

陽ノ丘荘だより

発行

〒869-1404
阿蘇郡南阿蘇村河陽
4463番地
社会福祉法人 順和会
特別養護老人ホーム
陽ノ丘荘
TEL 0967(67)2500
FAX 0967(67)2503

☆介護現場から発信

アベノミクス新3本の矢
「介護離職0」は絵にも書けない餅
社会福祉法人 順和会
陽ノ丘荘 総合施設長 吉村浩介

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。さて、昨年の介護報酬の大幅減額は予想を大きく上回るものでした。27%の減額と報道されましたが、実際は特別養護老人ホーム陽ノ丘荘で59%、さくら館と順心館で5.6%、グループホーム陽なたほつこと由紀の里は5.7%、デイサービスセンター陽ノ丘荘4.9%、デイサービスセンターさくら館において9.25%と言いう大幅な減額となりました。高齢化が進み、介護保険関連サービスを利用される方が増える。ならば介護報酬を下げ総額を抑える。全く持って素人の発想です。

用品のレンタルを介護保険から除外し、一定額の補助金を出す。また住宅改修も個人の資産形成につながっていると、理由で同じく補助金制に移行させる。「在宅での生活の継続」という大目標を立てながら、介護用品のレンタルや住宅改修に制限をかける。あつてはならない改悪改定です。極めつけは65歳から74歳までの利用者を一律2割負担へと引上げる案。電卓叩いて利用総数や介護報酬単価を計算する官僚の姿が目に見え、支えて行く決意があるのか疑問すら感じてしまいます。

一方、アベノミクス新3本の矢で「介護離職0」が打ち出され、2020年初頭までに特別養護老人ホームを含む40万人分の介護サービスを整備する計画が打ち出されました。全く持って介護現場の実態を把握していない施策に苦笑してしまいます。40万人分のハード(建物)を整備しても、そこで働く職員を確保出来ると思っっているのでしょうか。現在でも介護現場で働く職員は全く増えない状況が続いています。福祉系の高校や専門学校、大学も生徒の定員割れや閉校が加速する一方です。加えて介護現場から離れて行く人達も増えていきます。理由はよく耳にする給与や待遇ではありません。

我々の施設でも国が定める職員数の2倍近くの職員を抱えています。その業務は利用者の重度化や事務量の増加に伴い、過酷なものとなっています。根本的な制度改定を実施してほしいものです。夜勤人数の増員や職員配置基準数を大幅に増やし、それに見合った介護報酬とし、職員の負担軽減を図らなければ介護保険制度自体の維持は難しいと確信しています。

私達はこれまでも、そしてこれからこの地域で支援を必要とする高齢者を支えてまいります。加えて、十年後、二十年後の超高齢化社会に対応できるサービスの構築も責務です。「必要なサービスが必要な時に必要な方が利用できる地域」とする為、順和会の誇りであり、宝であり、尊敬に値する職員達と一丸となってご利用者の方々に「ぬくもりと安心」を感じていただける事業所作りを進めてまいります。皆様のより一層のご理解、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。念頭の挨拶とさせていただきます。

